

2020 年度
学校教育における
即興型英語ディベートの推進・指導者育成
中間報告書

助成：公益財団法人 日本財団

2021 年 4 月

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)



目次

1 研修会・地域交流大会・合宿・大会

1.1	PDA 神奈川交流大会 体験会 (厚木高校、光陵高校、茅ヶ崎北陵、相模原高校)	10月3日
1.2	PDA 首都圏交流大会 体験会 (八王子東高校)	10月8日
1.3	PDA 首都圏交流大会 体験会 (埼玉県立浦和高校)	10月9日
1.4	2020年度神奈川県教員研修(神奈川県教育委員会) 第4回英語4技能指導法研究グループ研究会	10月9日
1.5	PDA 神奈川交流大会 体験会 (鎌倉高校、湘南高校、多摩高校、大和高校)	10月10日
1.6	PDA 神奈川交流大会 体験会 (小田原高校、川和高校、横浜緑ヶ丘高校)	10月24日
1.7	PDA 中四国公立高校 即興型英語ディベート交流大会	10月25日
1.8	PDA 首都圏交流大会 体験会 (都立西高校)	10月27日
1.9	PDA 首都圏交流大会 体験会 (埼玉県立浦和第一女子高)	10月28日
1.10	PDA 神奈川県高等学校即興型英語ディベート交流大会	10月31日
1.11	PDA 岩手県公立高校 即興型英語ディベート交流大会	11月3日
1.12	2020年度神奈川県教員研修(神奈川県教育委員会) 第6回英語4技能指導法研究グループ研究会	11月11日
1.13	第7回 PDA 首都圏公立高校 即興型英語ディベート交流大会	11月15日
1.14	第6回 PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会	12月19日-20日
1.15	第6回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会 2021	1月23日-24日
1.16	PDA 東京都公立中高一貫校中学校即興型英語ディベート交流大会 2021	2月13日
1.17	令和二年度 PDA 熊本県高校生即興型英語ディベート交流大会	2月20日
1.18	PDA 全国中高教員向け即興型英語ディベートワークショップ 2021	3月7日
1.19	第4回 PDA 中学生即興型英語ディベート全国大会	3月20日
1.20	PDA 京都高校即興型英語ディベート交流大会	3月23日



PDA 神奈川県公立高校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2020年10月3日（土）9:00-11:30

会場：神奈川県立厚木高等学校（Zoomを用いたオンライン開催）

参加者：生徒28名（厚木高校、光陵高校、茅ヶ崎北陵、相模原高校）、教員5名

ジャッジ：PDAスタッフ、PDA認定教育ジャッジ、東京大学

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

はじめに、厚木高校の上前悟校長先生より、「緊張するかもしれませんが、ここに集まっている皆さんはモチベーションの高い人ばかりだと思います。日頃の練習の成果を発揮できるよう頑張ってください。」と激励のご挨拶をいただきました。

次に、PDAスタッフより、これまでの神奈川県交流大会の様子の紹介や、ルールの復習を行いました。恒例のPOI(Point of Information)の練習では、POIのポーズをしっかりとキメることができました。



上前校長先生のご挨拶



POI 練習の様子

ルールの復習の次は早速ディベートの実践です。第1ラウンドでは、現状の問題の分析とその問題が解決するプロセスについて丁寧に説明したり、相手の話をよく聞いて臨機応変に反論したりする姿が見られました。ジャッジのコメントでは反論について、部分否定をしたり、代替案を提示したり様々な反論があることや具体例を説明することで着目している問題の深刻性の伝わる具合が変わることなど、次のラウンドに向けてのアドバイスが伝えられました。

続く第2ラウンドでは、第1ラウンドでジャッジから受けたアドバイスを活かすべく、重要性の説明を意識したり、反論をしたりする様子が見られました。

ディベートが終わると画面越しにエアー握手をし、お互いの健闘を讃え合いました。



ジェスチャーをしながらスピーチ(茅ヶ崎北陵高校(左) vs 厚木高校(右))



ディベート後のエアークラップ(厚木高校(左) vs 相模原高校(右))



ディベート後のエアークラップ(茅ヶ崎北陵高校(左上) vs 厚木高校(下))



ジャッジを見て堂々とスピーチ（相模原高校(左)・光陵高校(右)）

最後に、第2ラウンドでベストディベータに選ばれた生徒が「いつも同じ高校の人とディベートをしているため、相手チームのアイデアもわかるが、他校の人とディベートすると、普段よりもどう伝えなければならないかを意識した。また他の高校の人とディベートをしたい」、「相手チームばかり意識しがちだが、チームメイトとどのように情報共有するかということも重要だと感じた。」など感想を述べ、体験会は終了しました。



ベストディベータに選ばれた生徒による本日の感想

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・改めてもっと頑張ろうと覚えることが出来ました。今回の経験をこれからのディベートに生かしていきたいです。（厚木高校）
- ・知らない人と楽しくコミュニケーション出来て楽しかった。（厚木高校）
- ・様々な角度から物事を見ることができ、他校の方から刺激をもらい、楽しかったです。自分はまだまだ未熟ですが、今回交流した方々のようにスキルをみがき、もっとディベートをうまくできるようになりたいと思います。（厚木高校）
- ・ディベートなので、仲間との情報共有も重要であると感じました。（厚木高校）
- ・初めて他校の生徒とディベートを行ったことで、感覚を掴むことができたことがよかったです。また、楽しく討論できた。（光陵高校）
- ・他の学校の人とやるのが初めてだったので新鮮だった（光陵高校）
- ・他校の人とできたから、いつも知っているメンバーとやるのと違って思ってた反論が来たりして面白かったです。（茅ヶ崎北陵高校）
- ・英語が大好きな私にとってこのようにディベートで他校の素晴らしい生徒と英語力を高め会えてとても楽しかったです！（茅ヶ崎北陵高校）
- ・いろんな人の意見が聞けて楽しかったから。ディベート中に気づかなかったポイントとかを見つけると楽しい。（茅ヶ崎北陵高校）
- ・久々の他校との大会で緊張していましたが、特に最後の個人コメントでジャッジの先生が丁寧に説明してくださったので、ディベートの流れがわかっただけでなく改善点を見つけることもできました。とても良い刺激になったので、自分の課題を改善し、次の県大会でより良いスピーチができるようにしたいと思います。（茅ヶ崎北陵高校）
- ・とても難しかったが、自分の思っていることを話したり、相手の意見を聞くことができた。即興で英語ディベートをするのは初めての経験で、とても難しかったが、楽しかった。他の学校の生徒から表現仕方や、意見の強め方を学べたことも良かった。相手の意見を聞いて理解し、反論を言うこと、自分の経験を言って意見を強めることができていなかったのも、とても悔しかった。もっとディベートが上手になりたいと思ったので、また機会を見つけて積極的に参加したい。（相模原高校）
- ・中々自分の思ったことが言えず、もどかしたかったです。原稿をつくる時も焦ってしまいました。臨機応変な対応力を身につけていきたいです。（相模原高校）



PDA 東京都立八王子東高等学校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2020年10月8日(木) 15:30-18:00

会場：東京都立八王子東高等学校 (Zoom を用いたオンライン開催)

参加者：生徒 18 名、教員 3 名

ジャッジ：PDA スタッフ、PDA 認定教育ジャッジ、名古屋工業大学

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

はじめに、八王子東高校の宮本校長先生より、「積極的にチャレンジして、楽しんでディベートしてください。」と激励のご挨拶をいただきました。

次に、PDA スタッフより、これまでの首都圏交流大会の様子の紹介や、ルールの復習を行いました。POI(Point of Information)の練習では、元気に POI と立ち上がって、POI のポーズをとることができました。



宮本校長先生のご挨拶



POI の練習

ルールの確認を終えると早速第1ラウンドの始まりです。自分たちが中学生時代の経験などを具体例として説明したり、相手の話をより詳しく聞きたいときに POI をしたり、活発な議論となりました。ジャッジの先生からのフィードバック後も、質問が絶えず、宮本校長先生のお言葉にあった「積極的なチャレンジ」が見られました。

続く第2ラウンドでは、第1ラウンドよりも積極的に POI が交わされ、白熱した議論となりました。相手の話をよく聞いて、その場で考えて、即座にレスポンスする姿が見られました。ディベートが終わると、お互いの健闘をたたえ、エアークラップを交わしました。



PDIで質疑応答



堂々とスピーチ

最後に、第2ラウンドでベストディベータに選ばれた生徒が「第1ラウンドは初めてで流れもつかめずグダグダになってしまったが、第2ラウンドではスムーズにできた。」「首長や相手の意見、相手が反論してきそうな点など、考えなければならないことが多くて大変だった。そして、それを即座に考えて話すというのが難しかった。次も頑張りたい。」「自分たちの知っている単語などがぴたっとハマってスピーチできた時は嬉しかった。また頑張りたい。」など感想を述べ、体験会は終了しました。



ベストディベータに選ばれた生徒による本日の感想

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・とても難しくて、中々言葉が出てこなかったが楽しむことができてよかった。
- ・もっと英語が話せるようになったらもっとディベートに取り組みたい。授業でも取り入れて体験する機会が欲しいと思った。
- ・今までやったことない経験で、思うようにできなかったところも多かったが、有意義な時間経験になったと思う。
- ・15分だけではんで意見をまとめたり、相手の発表最中に相手の意見を聞き取って反論を出すことはとても難しかったけど、やりがいを持って楽しかった。
- ・初めてのディベートで難しかったけど、英語で自分の意見を考えることが楽しかったからです。
- ・自分の意見をその場で考えて、英語で言うという、普段はできないような体験ができて、とても勉強になりました。
- ・自分の持つ語彙を駆使してディベートをするのが面白いと感じた。人と議論することが苦手で、最初は緊張していましたが、自分の意見を主張しつつ、相手へ反論する楽しさが分かりました。
- ・英語は得意かなと自負していましたが、実際の会話はスピードに追いつかず、頭が真っ白になってしまいました。ただ、知識を絞り出して協力する事がとても楽しかったです。
- ・話したり、言葉を考えるのは難しかったけれども、しっかりと考え、自分の意見を発表したり、他の意見を取り入れたりすることができた。
- ・英語のまとめ方についていい評価をもらえたことは、今までの努力が実感できてよかった。でも、即興でアイデア出しとなるとまた全然違って難しかった。
- ・頭を使いながら話すことが難しかしかったけれど、自分の考えが相手に伝わって良かった。次回があれば、重要性を補強出来るようにメモなど頑張りたい。
- ・難しかったけどとても楽しかったです。語彙の少なさを痛感したのでこれから語彙を増やしていきたいと思いました。
- ・とても難しかった。相手の言ったことにすぐ反論しなくてはならなかったので前でモゴモゴしてしまった。でも英語力はとてつくと考えた。



PDA 埼玉県立浦和高等学校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2020年10月9日(金) 16:00-17:00

会場：埼玉県立浦和高等学校 (Zoom を用いたオンライン開催)

参加者：生徒 21 名、教員 3 名

ジャッジ：PDA スタッフ、PDA 認定教育ジャッジ、東京大学大学

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

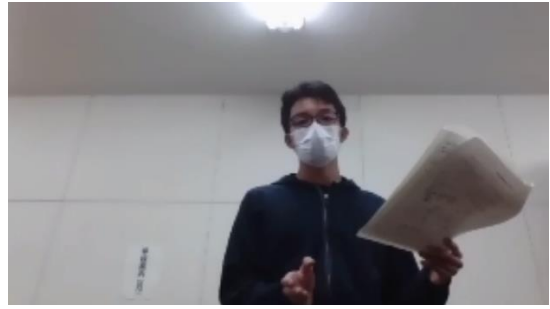
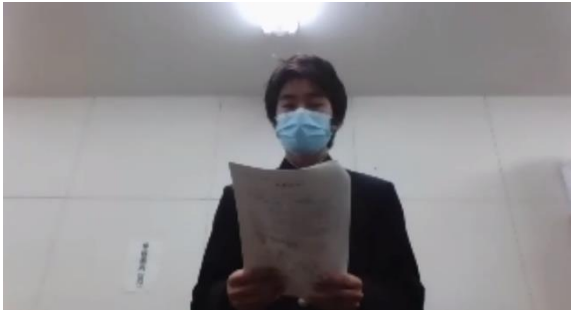
実践に移る前に、PDA スタッフより、これまでの首都圏交流大会の様子の紹介や、ルールの復習を行いました。POI(Point of Information)の練習では、POI の練習をしますと言うと、POI をしやすいよう椅子をずらすなどディベートに対する積極的な姿勢が見られました。



POI の練習

POI の練習を終えると、早速実践です。ディベートでは、論題に関係する人物を丁寧に分析したり、相手の話をよく聞いて反論したりすることができました。

ディベート後のジャッジのフィードバックでは、定義の仕方や他に話せたポイントなどジャッジへの質問が絶えず、次のディベートに向けてもっと学ぼうとする姿勢が見られました。



堂々とスピーチ



ジャッジの先生へ質問

最後に、今回ベストディベータに選ばれた生徒が「とても充実した時間となった。」「思ったよりも相手の話を聞きとることができて嬉しかった。」「反論をするのが難しかった。また頑張りたい。」と感想を述べました。



ベストディベータに選ばれた生徒による感想

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・今回は正直な自分の意見とは反対の意見を話さなくてもいけなかったが、そのような場面はディベートに限らず普段からありうるので、英語力も当然だが論理的思考力を養っていききたい。
- ・去年より英語力の伸びを感じられて嬉しかったです。チームのメンバーと協力して本格的なディベートが初めてという人にも教える立場で参加できました。回数を重ねてもっといい観点から考えられるように復習したいです。
- ・相手の言っていることを正確に聞き取ることがあまりできなかつたので、反論も論理的なものにすることが出来なかつた。テーマに対して短時間で多角的な視点を持って意見を論じることの難しさを感じた。
- ・何回もディベートを経験した訳ではなかつたが、論題についての考えを深めていくのは、とても楽しいものだった。考えを分かり易い英語に変換していけるように頑張っていきたい。
- ・自分の番、考えを伝えるのにとっても緊張した。時間も少なく意見がまとまらず大変だった。講評も頂けて非常に勉強になった。
- ・ここまで長い時間、自分の意見を短い時間で考えて言うのがとても厳しかった。しかしながら、お互いの意見を聞いたり言ったりするのが盛り上がったのでとても面白かった。
- ・論題が身近のものであつたので考えやすく楽しむことができました。
- ・なんとか例示などをして論理的に、否定の意見を伝えることができた。相手チームの反論をシンキングタイム 0 秒でさらに反論しなければいけないのが難しく、あまり上手くできなかった。definition をどう定義するかで、話の進み方が変わっていくことが面白いと思つた。また機会があれば挑戦してみたいです。
- ・法律的な内容に絡むようなものでなくて、すごくやりやすいもので、議論が深まったな〜と感じ、やりやすいもので嬉しかったです。



2020 年度神奈川県教員研修(神奈川県教育委員会)

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2020 年 10 月 9 日 (金) 14:00-17:00

会場：オンライン開催(Zoom)

参加者：教員 33 名 (横浜翠嵐高等学校、横浜平沼高等学校、横浜緑ヶ丘高等学校、光陵高等学校、希望ヶ丘高等学校、川和高等学校、柏陽高等学校、多摩高等学校、横須賀高等学校、平塚江南高等学校、鎌倉高等学校、湘南高等学校、小田原高等学校、茅ヶ崎北陵高等学校、相模原高等学校、厚木高等学校、大和高等学校)

ジャッジ：PDA スタッフ、PDA 認定教育ジャッジ、神奈川県教員
神奈川県教育委員会

はじめに、高校教育課指導主事である田村総子先生より、この研修の目的と激励のお言葉をいただきました。その後、PDA スタッフからジャッジの心得について簡単なレクチャーを行いました。レクチャーでは、ディベートを実践する生徒が緊張していることを気にした上で、具体的にスピーチの内容に触れながらコメントをすること、そしてジャッジの上達のためディベートのスピーチと同様に経験が大切であることが伝えられました。



田村先生によるご挨拶



ジャッジの心得についてのレクチャー

今回の研修では神奈川県交流大会の直前ということもあり、ディベートのラウンドを 2 回行いました。教員はディベートチームとジャッジチームに分けて、それぞれの役割の実践を行いました。



スピーチの様子



POI をする姿



身振りを交えたスピーチ



試合後のエア握手

特に今回の研修では交流大会でジャッジを務めるための練習の機会として、ジャッジコメントの時間を通常より長く取り、より実際に近い形でジャッジ実践を行いました。最後にチェアジャッジが判定を述べ、ジャッジチームの教員にも個人コメントをしました。



ジャッジコメントの様子



ジャッジコメントの様子



準備時間の様子

今回の研修では通信状況が乱れる場面が見られました。この原因としては、放課後における通信量の増加による帯域の圧迫ではないかと考えられます。PDA としても、今後のオンライン研修では、接続不良時の対応についてもガイダンスを策定するなどの対策を検討します。

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・ジャッジの個人コメントは難しいです。良いところと、さらに伸ばしたいところを、生徒に伝えられるようになりたいです。（大和高等学校）
- ・回線は安定しなかったこともあったが、オンラインにも慣れてきて利便性も強く感じるので、トラブル対応も含め上手く使用していきたい。（大和高等学校）
- ・ジャッジの時間にゆとりがあってよかったです。（平塚江南高等学校）
- ・ジャッジについて、ブレイクアウトルームで具体的にお話を聞けたのでとても良かったです。（厚木高等学校）
- ・ジャッジの難しい点は、参加者と共に納得できなければいけないことを改めてわかりました。（希望ヶ丘高等学校）
- ・今回はインターネット回線がとぎれ、大変不便でした。そういった際のバックアップ技術を持っておくべきというご意見は納得できるものですが、私のように ICT に弱い人間が教壇に立っていることも事実です。ですので、そういった方法等をご教授いただくような内容が研修にあれば安心して参加できます。（小田原高等学校）
- ・個人コメントが充実していて参考になりました。次回に生かしていきたいと思います。（柏陽高等学校）
- ・初めてジャッジをさせて頂き、全体の論理を見通す難しさを痛感致しました。また練習させて頂ける機会がありましたらさせて頂きたいと思いました。（光陵高等学校）
- ・だんだん慣れてきたので、ディベートのスタートラインに立った気がする。しっかりと勉強したい。（希望ヶ丘高等学校）



PDA 神奈川県公立高等学校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2020年10月10日(土) 9:00-11:30

会場：神奈川県立多摩高等学校 (Zoom を用いたオンライン開催)

参加者：鎌倉高校(生徒3名、教員3名)、湘南高校(生徒6名、教員3名)、多摩高校(生徒8名、教員1名)、大和高校(生徒3名、教員1名)

ジャッジ：PDA スタッフ、PDA 認定教育ジャッジ、東京大学大学

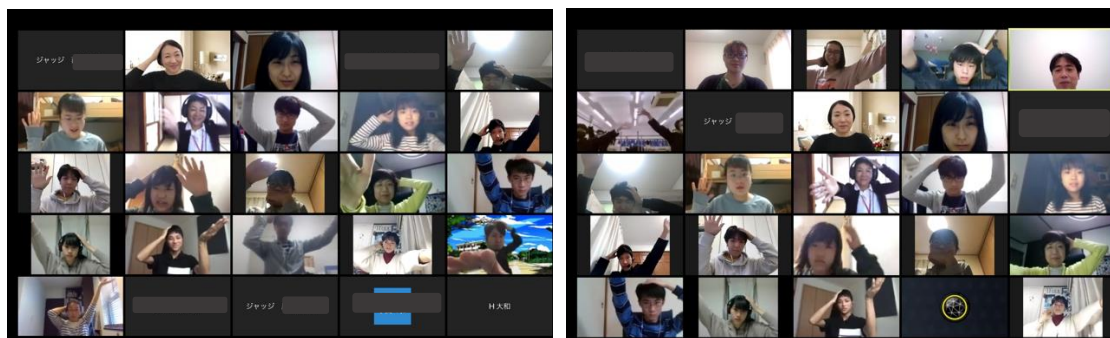
助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

はじめに、今回の体験会のホスト校である、神奈川県立多摩高等学校校長の野田麻由美先生より、ご挨拶いただきました。「大学入試や就職において、オンラインが欠かせなくなってきました。対面でできることもオンラインだとうまくいかないことも多々あります。今回の体験会で、表情の作り方、声の出し方、ジェスチャーなど、オンラインでのコミュニケーションを円滑にするためのスキルを身につける機会にしてください。」と激励のお言葉をいただきました。



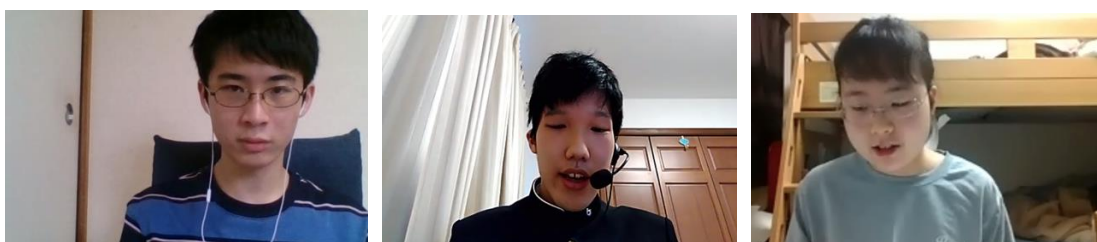
野田校長先生によるご挨拶

次に、ルールの復習として POI (質疑応答) の練習を行いました。イギリスの議会を模したディベートであるこのパラメンタリーディベートでは質疑応答のポーズも決まっています。スタッフの「せーの！」という掛け声に合わせて、全員が元気よく POI をすることができました。



POI (質疑応答) のポーズの練習

POIの練習を終えると、早速実践ラウンドの始まりです。ディベートでは、POIが見られるテーブルもあり、お互いの話を理解しようとする姿勢が見られました。また、今回の論題は身近なテーマということもあり、自分たちの過去の経験を話すなど、具体的な描写が多く見られました。ディベートが終わるとお互いの健闘をたたえ、エアー握手を行いました。続く第2ラウンドでは、第1ラウンドでジャッジの先生から受けた「～だから…が起こるというプロセスの説明を意識し続けてください。」「なんのためにということを意識しましょう。」などのフィードバックを活かそうと準備時間からロジックを丁寧に考えようとする姿が見られました。第1ラウンドで流れをつかみ、第2ラウンドが始まるとよりスムーズにディベートを行うことができました。POIも第1ラウンドよりも活発に交わされ活発に議論することができました。



堂々とスピーチをする様子(鎌倉高校、多摩高校、湘南高校)



自信を持ってスピーチしています(多摩高校、湘南高校)

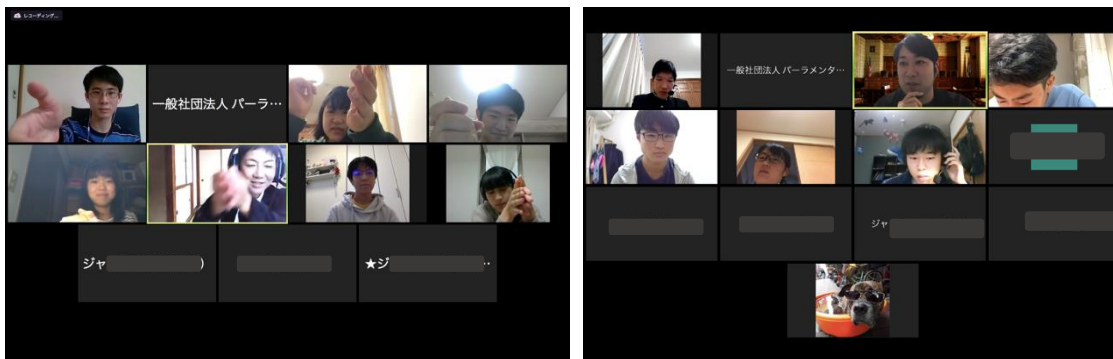


POIにチャレンジ!(大和高校)

ディベート後のエアー握手①



ディベート後のエアークラップ②



ディベート後のエアークラップ③

ジャッジによるフィードバック

最後に、第2ラウンドのベストディベーターが「“make friends”ができてよかった。」「よかったところと改善点がわかって嬉しかった。」「自分では思いつかないアイデアが聞けて面白かった。」「やったことのある論題でも新しい発見がある。振り返りが大事。」と感想を述べ、体験会が終了しました。



ベストディベーターに選ばれた生徒による感想

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・自分に合ったポジションを見つけ、また意見をはっきり言うことができてよかった。（鎌倉高校）
- ・いつもは学校の知り合いとなので、少し甘えてしまったのですが、いつもとは違う緊張感で非常に楽しめました。（鎌倉高校）
- ・まず前回からの進歩ですが、言葉としての英語の使い方が良いと褒められたので、そこをさらに磨けるよう頑張りたいです。一方で、インパクトの弱さ、話す時間の長さなど、基本的なことなのに難しいことが多く、まだまだ力が足りないと実感しました。（湘南高校）
- ・本当に楽しかったです！自分の何が足りないのかを指摘して頂くことは、本当に勉強になります。相手がどう言ってくるか予想し、それに反論するという事までプレパで考えるのがとても難しいなと感じました。今回二人で行ったということもあり、意見をまとめやすかったです。それが3人になるとまた大変だとおもいます。しかし、沢山 **Viewpoints** が出てくるだろう。などなど考えることがたくさんあり、それ自体がとても楽しいです。また宜しくお願いします！（湘南高校）
- ・いろんな人とディベートをすると気付く点がたくさんあるので良い機会でした。（多摩高校）
- ・楽しくディベートができました。もっといろんな高校の人とディベートがしたいし、いろんな人にディベートを知って欲しい。（多摩高校）
- ・自分の課題を見つけることができた。（大和高校）
- ・他校との交流ができて楽しかった。（大和高校）
- ・他校の生徒と関わる非常に良い機会だなと思います。ジャッジまでの時間に生徒たちが交流している点も非常に良いです。（教員）
- ・他校の生徒の生き生きした様子が見れた。（教員）
- ・やはり交流会はとてもいいと思います。刺激をたくさん生徒が受けているのがわかりました！（教員）
- ・観戦したディベートのジャッジの意見やものの考え方フィードバックの仕方が参考になりました。（教員）
- ・何度実践しても大変難しく、自分の日頃の考え方を改めるよい機会になっています。生徒とともに自分の成長を感じられるので次回もぜひ参加させていただきます。（教員）



PDA 神奈川県公立高等学校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2020年10月24日（土）9:00-11:30

会場：神奈川県立小田原高等学校（Zoomを用いたオンライン開催）

参加者：小田原高校(生徒9名、教員1名)、川和高校(生徒9名、教員1名)、横浜緑ヶ丘高校(生徒8名、教員1名)

ジャッジ：PDA スタッフ、PDA 認定教育ジャッジ、名古屋工業大学

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

はじめに、今回の体験会のホスト校である、神奈川県立小田原高等学校校長の林先生より、ご挨拶いただきました。「この即興型英語ディベートは、英語以外の要素も重要だと気づく機会になります。一般常識や世の中のことに興味を持っているかが重要です。また、自分の信条とは違う立場としてディベートをすることや相手と対話することなど難しい面もありますが、楽しみに変えて頑張ってください。勝ち負け以上に自分がどう取り組むか、これからどう取り組むかを考えるが重要です。英語をもっと学んでいこうという意欲につなげてください。」と激励のお言葉をいただきました。



林先生によるご挨拶

次に、ルールの復習として POI（質疑応答）の練習を行いました。スタッフの「POI」という言葉を聞いて、練習前に POI のポーズのお手本を披露してくださる生徒も多く見られました。練習では全員が POI を元気よく行うことができました。



校内からの様子(小田原)



全員で POI

POI の練習と昨年の神奈川交流大会の様子を共有し終えると、早速実践ラウンドの始まりです。第1ラウンドでは、自分が中学生のときのエピソードを具体例として提示したり、ジェスチャーを効果的に行いながらディベートをしたりする様子が見られました。ディベート後のジャッジのフィードバックでは、次のラウンドに活かそうと真剣にメモをとったり、質問をしたりするテーブルもありました。続く第2ラウンドでは、「スピーチでわからないことがあったら POI をしましょう」、「当たり前だと思っていることでもしっかり言語化して理由づけを行いましょう」など第1ラウンドで受けたアドバイスを活かそうとする姿が見られました。ディベートが終わりとお互いエアー握手をし、健闘をたたえ合いました。



ジェスチャーをしながらスピーチ(川和高校)



勢いよく POI ! (小田原高校)



堂々とスピーチ(横浜緑ヶ丘高校)

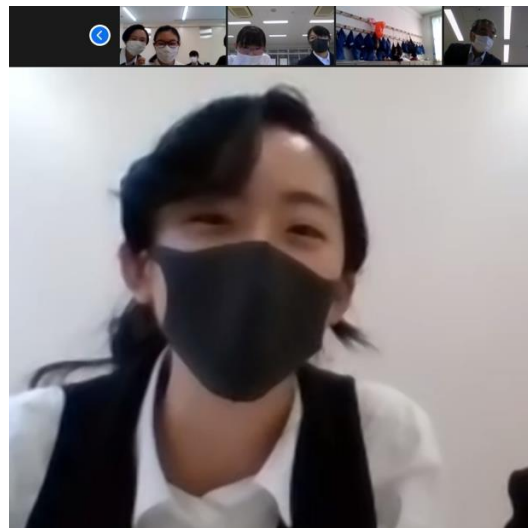
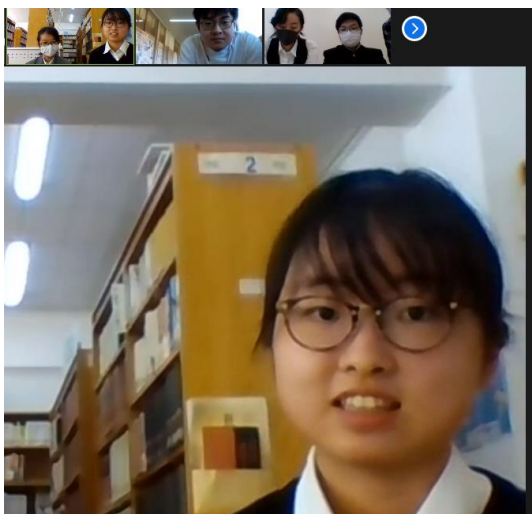


ジャッジのコメントを真剣に聞く様子



お互いの健闘をたたえてエアー握手

最後に、第2ラウンドのベストディベーターが「他校の人とディベートをするのはとても新鮮だった。」「自分では思いつかない反論やアイデアを聞くことができ勉強になった。」「いろいろな学校のディベートの手法などを学ぶことができた。」「とても刺激になった。次に活かしたい。」と感想を述べ、体験会が終了しました。



ベストディベーターに選ばれた生徒による感想

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・普段と違う相手と意見でより深く掘り下げた議論ができたり、POI も積極的に受けたりすることが出来て、良い経験になったと思います！（川和高校）
- ・違う高校の方との交流と言う面でも、ディベートをするという面でも楽しむことができました。そして、純粋にもっと上手になりたいと思えたので良い経験になりました。（横浜緑ヶ丘高校）
- ・普段の練習とは違うジャッジからのアドバイスをもらえてよかった。（川和高校）
- ・自分の語学の活用を実感できた。（小田原高校）
- ・反論を一瞬で考えるのは難しく後で言われると、思いついたりするので新鮮だった。他校とやるのは緊張と共に難しい視点が来たりするのでその対応をするのが大変だった。（横浜緑ヶ丘高校）
- ・様々なインスピレーションをもらったりアイデアを得たりと沢山勉強になる部分があった。交流を通して自分では気づけなかった意見や視点などを学ぶことが出来て非常に有意義でした。（横浜緑ヶ丘高校）
- ・初めて会う方と意見を交換でき、またいつもと違った反論などがあって新鮮で面白かったです。（川和高校）
- ・ベストディベーターに選んでいただけなのが初めてだったので、次のラウンドの時もわかりやすい例と論理で頑張りたいです。（川和高校）
- ・自分に足りない、語彙だけではなく、立論の仕方や何を大事にするかなどを知れて良かった。（川和高校）
- ・とても楽しかったです。自分の能力把握ができ、自分の改善点を把握出来ました。更に他校の論理の形を知ることが出来、非常に有意義な時間を過ごせました。（横浜緑ヶ丘高校）
- ・リモートだと、慣れている環境(自分の学校)で落ち着いて話せるので良い形式だなと思いました。また、ディベートをする度発見があって、ジャッチの方のアドバイスや今日の事を次に生かそうと前向きに考えられて、素敵な経験になりました、とても楽しかったです！本日は有難うございました！（小田原高校）
- ・今までにない経験を沢山して、すごく充実した時間だったと思います。他校のことも知ることができて楽しかったです！（小田原高校）
- ・他校の生徒も同じルールでやっているとすぐに交流ができてとてもいいと思いました。（教員）
- ・生徒たちが生き生きとディベートをしているところを見ることができた。（教員）



PDA 中四国公立高校 即興型英語ディベート交流大会 2020

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2020年10月25日(日) 9:00-13:00

会場：Zoomを用いたオンライン開催

参加者：香川県立高松高校、愛媛県立松山東高校、徳島市立高校高校、岡山朝日高等学校、徳島県立城ノ内高校

ジャッジ：PDA スタッフ、PDA 認定教育ジャッジ、京都大学、一橋大学

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

開会式では、香川県立高松高等学校の校長、出射隆文先生より、ご挨拶いただきました。「去年は3校(高松、徳島、松山東)で第一回四国交流大会、今年は、岡山朝日と城ノ内が加わり、5校での開催となり、中四国交流大会となりました。英語力だけでなく、様々な役立つ力の付く即興型英語ディベートの効果を、私自身つよく実感している。素晴らしい機会を大いに活用してもらいたい。」と激励のお言葉をいただきました。



出射校長先生によるご挨拶

次に、ルールの復習として POI (質疑応答) の練習を行いました。この POI はディベート中に相手に対し質疑応答を要求することができるルールです。お互いにわからなかった部分を解消したり、より議論を深めたりするためにとっても重要になります。朝早い時間ではありましたが、全員が元気よく POI のポーズを決めることができました。



全員で POI の練習



校内からの様子(松山東)

POIの練習を終えると、早速第1ラウンドの始まりです。第1ラウンドの論題は、「*Japan should legalize euthanasia.* (日本は、安楽死を合法化すべきである。)」でした。消極的安楽死と積極的安楽死の違いに言及したり、海外での事例を提示したり、普段から社会問題に関心を持っているのだと感じられるスピーチが見られました。また、患者自身だけでなく、医者の負担や家族の心情など、幅広い観点からお互いに熱い議論を交わしました。開会式で練習したPOIもたくさん見られ、議論を深めようとする姿勢が見られました。



ディベート後のエアークラップ ([左]松山東 vs 高松、[右]城ノ内 vs 高松)

第1ラウンドが終わるとすぐ第2ラウンドの始まりです。第2ラウンドの論題は、「*Single-sex schools are better than co-educational schools.* (共学より男子校または女子校のほうがよい。)」でした。どちらの方が勉強に集中できるか、学校生活をより楽しめるのか、将来必要になるコミュニケーションスキルや様々な経験を得られるのかなどについて、学校行事の例を出したり、身近なエピソードを例示したりしながら説明しました。ディベート後、ジャッジが勝敗を出すまでの時間に、今日の朝食は何を食べたか、最近あった学校行事や直前に迫った学校行事は何か、ハロウィーンは何をするか、部活動ではどのようなことをしているかなど、積極的に交流をし、会話を楽しみました。



準備時間の様子(城ノ内)

POI! (徳島市立)

そしてジャッジを務めたスタッフがもう一度この人のディベートを見たいとエキシビションディベーターに推薦した6名によるエキシビションディベートが始まりました。論題は「*“Go To travel” campaign should be cancelled. (Go To トラベルキャンペーンは中止されるべきだ。)*」でした。感染症予防が十分になされるのかどうか、旅行に行くことができないストレスやうつ病の人などにとってのリフレッシュの機会としての重要性、航空業など旅行の影響を受ける産業やそれによる経済効果など様々な観点から議論がなされました。

オーディエンスの生徒も勝敗を考えながらディベートを観戦し、ディベートが終わると挙手で Government が勝ったか Opposition が勝ったか投票が行われました。生徒ジャッジとメインジャッジの投票の結果、今回のエキシビションディベートは Government チームの勝ちとなりました。



堂々とスピーチ（[左]岡山朝日高校、[右]高松高校）



POI！（城ノ内高校）



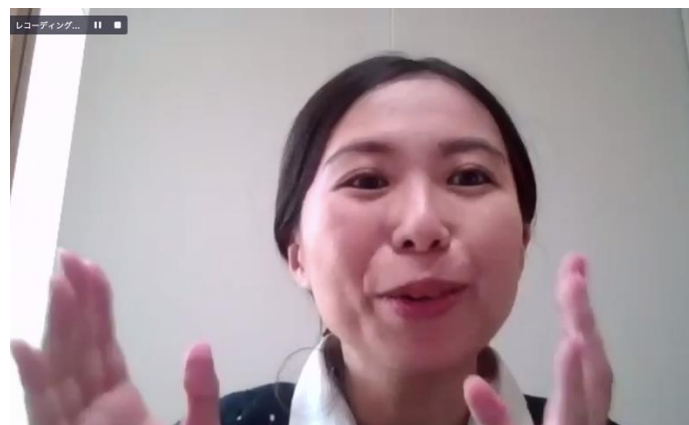
聴衆を見てスピーチ（松山東高校）

閉会式では、香川県立高松高等学校の校長、出射隆文先生より、「昨年から参加校がどんどん増えています。リモートという手法を使いながら、いろいろな学校の生徒とディベートで交流していけたらいいなと思います。」と、今日の交流大会だけでなくこれからの取り組みについてもお言葉をいただきました。



出射校長先生によるお言葉

そして、PDA 代表理事の中川智皓（大阪府立大学工学研究科准教授）より、「現在の大学の講義もリモートが中心です。みなさんが進学する頃には今よりもオンラインという手法が活用されていることでしょう。大学入学後、違うキャンパスの人と交流することも増えると思います。ぜひこれからもオンラインで深い議論をしたり意思疎通をする工夫をしたり頑張ってみてください。」と交流大会に参加した生徒への激励の言葉が送られました。



PDA 代表理事中川による激励の言葉

【表彰】

〈エキシビジョンディベータ賞〉

- PM [redacted] さん (岡山朝日高校)
- LO [redacted] さん (高松高校)
- MG [redacted] さん (高松高校)
- MO [redacted] さん (高松高校)
- LOR [redacted] さん (松山東高校)
- PMR [redacted] さん (城ノ内高校)



エキシビジョンディベータ

〈チーム賞〉

- 1位 チーム G 城ノ内高校
- 2位 チーム A 高松高校
- 3位 チーム C 高松高校
- 4位 チーム H 城ノ内高校
- 5位 チーム E 徳島市立高校
- 6位 チーム F 岡山朝日高校



1位 城ノ内高校



2位 高松高校



3位 高松高校

〈ベストディベーター賞〉

- [redacted] さん (高松高校)
- [redacted] さん (城ノ内高校)
- [redacted] さん (城ノ内高校)
- [redacted] さん (城ノ内高校)
- [redacted] さん (岡山朝日高校)
- [redacted] さん (徳島市立高校)
- [redacted] さん (徳島市立高校)
- [redacted] さん (松山東高校)
- [redacted] さん (松山東高校)
- [redacted] さん (高松高校)
- [redacted] さん (高松高校)
- [redacted] さん (高松高校)



ベストディベーター賞

〈POI 賞〉

- [redacted] さん (高松高校)
- [redacted] さん (城ノ内高校)
- [redacted] さん (岡山朝日高校)
- [redacted] さん (徳島市立高校)
- [redacted] さん (松山東高校)
- [redacted] さん (高松高校)
- [redacted] さん (高松高校)
- [redacted] さん (高松高校)



POI のポーズで表彰

参加者の声（アンケートより抜粋）

生徒の声

- ・自分よりレベルの高い人がたくさん居て良い刺激になった。（徳島市立高校）
- ・コロナ禍の中、オンラインという形でディベートをすることができてよかったと思う。（城ノ内高校）
- ・様々な観点を知れて、また、ディベートの上手な子は何に気をつけているか、ディベートをする上で気をつけることは何かに気づけた。発音が上手な子、意見がハッキリしていてわかりやすい子などなどと出会えてもっとディベート力を向上させたいと思った。（城ノ内高校）
- ・安楽死や共学など普段議論しないような内容を話し合うことが出来、さらに英語で議論出来た。（徳島市立高校）
- ・これからたくさん練習してうまくなりたいです。（高松高校）
- ・1回目のディベートでは上手くいかないこともあったが、2回目ではそこを改善して取り組むことができた。それでも、まだまだ改善点はいっぱい見つかったので、少しずつ練習して経験を積みたい。（松山東高校）
- ・相手の言っていることが理解できて反論できた時の達成感があった。（高松高校）
- ・今回、交流大会を開いて下さりありがとうございました。ディベートを他校とできるのはコロナ禍の中で本当に貴重でした。ジャッジコメントでも的確なアドバイスもいただいて、今後の練習に活かしていきたいです。（城ノ内高校）
- ・社会現象に興味をもつこと、自分の意見をもつこと、そして、逆の立場の意見も十分に説明できるレベルで理解しておくことがとても重要だと思った。また、ディベートのやり方として、使う言葉、掘り下げる部分、構成など、によって、内容をいかに伝えられるかが重要になってくるのが本当に面白かった。（岡山朝日高校）
- ・色んな高校と交流できて楽しかった。（徳島市立高校）
- ・自分の意見を英語で表現する機会を与えられたことが嬉しく、またもっと英語力をつけたいと思えた点で良い経験になったと思います。（高松高校）
- ・英語で自分の意見を伝えることはとても難しかったです、それ故にクリアな主張ができた時に達成感を感じました。（岡山朝日高校）
- ・英語で自分の意見を伝えることはとても難しかったです、それ故にクリアな主張ができた時に達成感を感じました。テーマが全て社会的、かつ私たちの生活にも関わってくることで、こうして改めてそれらについて考えることは、私達自身の社会への参画の一端になると共に、今後国際的に活躍することが求められる社会において必要な「自分の意見を持つ」ために貴重な経験でした。（岡山朝日高校）
- ・たくさんの良い刺激を得られた。（松山東高校）

教員の声

・指導する際のステップみたいなものを学ぶことができました。機器の不調などオンラインの不便さもありましたが、オンラインだからこそ昨年よりも出場校も増えて実施できてよかったと思います。

・生徒たちがイキイキと参加していた。

・高校生の頑張り、ジャッジの方の素晴らしいフィードバックを見られて大変勉強になりました。

・ジャッジの先生からは、次につながる効果的なアドバイスをいただき、非常に感謝しています。最近、テスト等の行事があって授業中にディベートができてないことで、やはり生徒の発話がなかなか出ない等、日々の積み重ね、授業の大切さをこの交流会で実感しました。生徒たちは、楽しく交流できており本当に参加させていただいて良かったです。



PDA 東京都立西高等学校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2020年10月27日(火) 15:30-18:00

会場：東京都立西高等学校 (Zoomを用いたオンライン開催)

参加者：生徒26名、教員5名

ジャッジ：PDAスタッフ、PDA認定教育ジャッジ

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

ディベートを始める前に、ルールの復習や POI(Point of Information)の練習を行いました。即興型英語ディベートをするのは初めてだという生徒が大半を占め、やや緊張している様子でしたが、恒例の POI の練習を通して緊張を和らげました。



POI の練習



ルール説明

POI の練習を終えると、早速実践です。準備時間はチームメイトと協力してアイデアを出し合いました。ディベートでは、ルールを確認しつつ、POI をしてお互いの内容に対する理解を深めながら議論しました。「それは部分的には正しいものの、それが全てではない。」と相手の主張を一部譲歩した上で反論を行ったり、「相手チームが悪いといった問題はむしろいいことなのである。」と、価値観をひっくり返すような反論を行ったり、説得的な分析が飛び交いました。



準備時間・ディベート中の様子

続く第2ラウンドでは、1ラウンド目でジャッジから褒められた点をさらに伸ばそうとする姿勢が見られたり、改善点をうまく活かそうとしたりする様子が見られました。相手の話を全て理解しようと全身を耳にしてお互いのスピーチを集中して聞きました。ジャッジによるコメント終了後も、いい具体例を思いつくにはどうしたらよいか、英語が上達するには何をすべきかなど質問が続き、英語や論理的思考に対する意欲的姿勢が見られました。

最後に、今回ベストディベータに選ばれた生徒が「思ったことをとっさに話すことが難しかった。相手の意見を踏まえた上で反論をすることが重要だと思った。」「日本語で考えたことを英語で言おうとしてもサッと英語が出てこない。まとめのスピーチをするのは日本語でも難しそうで、英語でするのはさらに難しかった。」「言いたいことが言えず、もどかしく感じた。このもどかしさをバネに頑張りたい。」と感想を述べました。



ベストディベータに選ばれた生徒による感想

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・自分の言いたいことを英語に変えたときの単語がすぐに思い浮かばなくてもどかしさを感じた。
- ・英語ディベートでは、英語とディベートの能力をどちらも向上させることができ、素敵な競技だと感じました。
- ・自分ができないことを積極的にやったりして自分のトーク力や他の人のトーク力を知ることが出来た。
- ・英語をもっと勉強して、自分の意見を正確に言えるようになりたいと思いました！
- ・英語の成績は悪いけれど一回戦に比べて進歩することができてよかった。アドバイスもとても分かりやすかった。
- ・緊張感がある中で自分の意見を述べるのが、すごくドキドキしたが新鮮な体験でとても勉強になった。日本語では言えることがとっさに英語に出来ないもどかしさや、相手への否定が緊張で浮かばない焦りを体験した。この悔しさをこれからの勉強にいかしたい。
- ・ディベートに必要である、すぐ考える力を身につけることができた。
- ・英語で思ったことをとっさに言うのは難しかったし、相手の反論や意見を踏まえてもう一度、というのも難しかったです。リスニング力をもっと上げようと思いました。ジャッジの方々、具体的かつわかりやすいアドバイスありがとうございました！ディベートに対しては不安だらけだったけど楽しめました！英語の勉強頑張ります！



PDA 埼玉県立浦和第一女子高等学校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2020年10月28日(水) 15:30-18:00

会場：埼玉県立浦和第一女子高等学校 (Zoomを用いたオンライン開催)

参加者：生徒17名、教員2名

ジャッジ：PDAスタッフ、PDA認定教育ジャッジ

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

はじめに、首都圏交流大会の様子の共有やルールの確認を行いました。恒例のPOIの説明では、POIのポーズを行いました。POIとは、Point of Informationの略称で、相手のスピーチ中に質疑応答を要求することができるルールです。相手の話がわからなかったときや、具体的に聞きたいとき、反論の布石を打ちたいときなどに行います。



POIの練習

POIの練習を終えると、早速実践です。現状分析を行うことで論題の重要性を説明したり、将来への影響を説明することで重要性をチームメイトのポイントを補完したり、お互いの主張を理解していないとすることができない比較を行ったり、活発に意見が交わされました。続く第2ラウンドでは、前提となる理由を話そう、具体例を出してみよう、など第1ラウンドでジャッジから受けたアドバイスを活かそうとする姿勢が見られました。“Even if”を用いた反論をしたり、代替案を提示したり、お互いに説得力のある分析を出し合い、とても甲乙付け難いディベートとなりました。



準備時間・ディベート中の様子



堂々とスピーチをします



エアー握手で健闘をたたえあいます

最後に、今回ベストディベーターに選ばれた生徒が「難しかったが、またチャレンジしたい。」「改善点がわかってよかった。また、みんなで意見を出し合うのも面白かった。」と感想を述べました。



参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・ジャッジの方が、すごく細かく分析してくださったので、改善点や良かった点が分かりました。ディベートに苦手意識があったのですが、楽しかったです！
- ・どういうレスポンスをしたらより説得力があるのかを学ぶことができた。
- ・自分の改善点が見つかり、第2ラウンドに生かすことができ、自分の成長を感じた。実りのある時間となりました。
- ・瞬時に判断してみんなで話し合っって反論するのが楽しかった。苦手意識があったのですが、1回目での改善点に注意して2回目に取り組み、上達したのを実感できたのが嬉しかったです。
- ・改善点とかをわかりやすく教えてもらえて頑張ろうという気持ちになった。自分のよかったところを言ってもらえてすごく嬉しかったです。苦手意識があったけれど、またやりたかったです。
- ・今までの練習で自分が気付かなかった改善点を的確にかつ客観的に教えてくださった。ジャッジの方の感想が的確で学ぶことがたくさんあった。これからもディベートを重ねて成長していきたい。
- ・自分が良い点、改善点などがよく分かったのでとても理解ができたから。言いたいことがでなかったり、反論が思いつかなかったりしましたが、使ったらよい単語などがよく分かりました。
- ・先生の具体的なアドバイスがとてもタメになり、先生の広い視野に見習いたいなと思いました。あと、先生に褒められるのが嬉しかったです♡ ディベートにとっても興味を持ちました。自分の英語力を上げるだけでなく、対応力など様々な力を生かさなければならぬと強く感じました。

PDA神奈川県高等学校即興型英語ディベート交流大会 2020

開催日時：2020年10月31日（土）9:00-15:00

会場：オンライン開催（Zoom）

参加校：17校（横浜平沼、横浜翠嵐、横浜緑ヶ丘、光陵、大和、川和、柏陽、多摩、横須賀、鎌倉、湘南、小田原、茅ヶ崎北稜、相模原、厚木、希望ヶ丘、平塚江南）

参加者：生徒105名、教員35名

スタッフ：PDAスタッフ、PDA認定教育ジャッジ、名古屋大学、九州大学、一橋大学

主催：神奈川県教育委員会、一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

主管：学力向上進学重点校エントリー校連絡協議会 グローバル教育研究ワーキンググループ
4技能指導法研究グループ

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI財団

協力：神奈川県立横浜平沼高等学校

開会式では、神奈川県立横浜平沼高校校長の鑪英治先生より、「Let's enjoy! Have a great time!」と英語で激励のお言葉をいただきました。そして、柏陽高等学校校長の井坂秀一先生より、今年で5回目となるPDA神奈川県高等学校即興型英語ディベート交流大会開催の歴史的背景をご紹介いただき、「皆さんにはこれからの日本を背負う人財になってほしい。」と激励のお言葉をいただきました。

次に、PDA代表理事である中川智皓（大阪府立大学工学研究科准教授）より、大学の授業や実験の状況を紹介し、「オンラインという手法を活用することがこれから重要になってきます。頑張ってください。」とメッセージが送られました。その後、17校の学校紹介、ルールの復習を行い、早速1ラウンド目の対戦表が発表されました。



鑪英治校長によるご挨拶



井坂秀一校長によるご挨拶



PDA代表理事中川による挨拶

開会式後、校長集合写真の撮影を行いました。ご協力いただいた校長先生のみなさま、ご多忙な中、撮影にご協力いただきありがとうございました。



横浜平沼高校



多摩高校



厚木高校



茅ヶ崎北陵高校



光陵高校



横浜翠嵐高校



湘南高校



希望ヶ丘高校



横須賀高校



鎌倉高校



大和高校

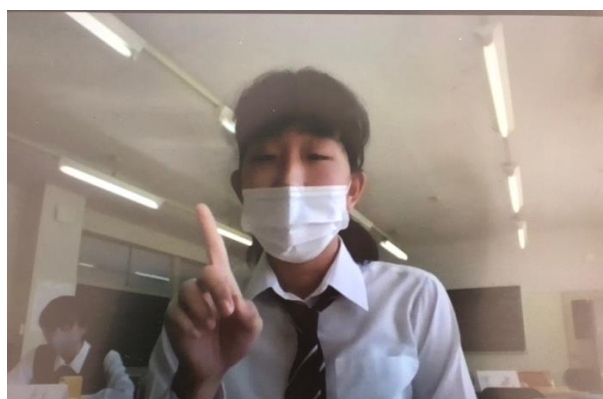
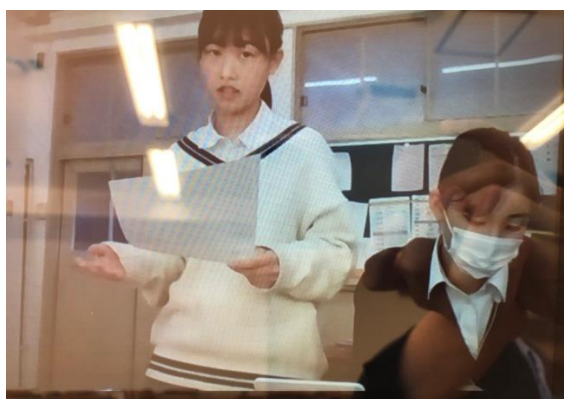


横浜緑ヶ岡高校

第1ラウンドのお題は「*States should prohibit anonymous writing/posting on the Internet.*

(政府はインターネット上の匿名投稿を禁止するべきである。)」Government チーム(肯定側)からは、昨今ニュースで見る無責任な誹謗中傷などの問題があげられ、責任を持って投稿をするべきだという主張がなされました。Opposition チーム(否定側)からは、匿名だからこそ投稿できること、匿名性が重要であるケースについて提示され、Government チームの問題に匿名投稿の禁止以外にどのような対処がありうるかなどが議論されました。

今年のPDA神奈川県高等学校即興型英語ディベート交流大会は予選の3ラウンドとエキシビジョンディベートのメインジャッジ(司会進行やタイムキーピング、結果の送信、勝敗の発表、生徒へのコメントを行う)は全て高校教員が務めました。これまでの教員研修を通してディベートやジャッジの行い方について日々研鑽を積んだ教員によるフィードバックを生徒は真剣にメモを取り、説明に聞き入っていました。



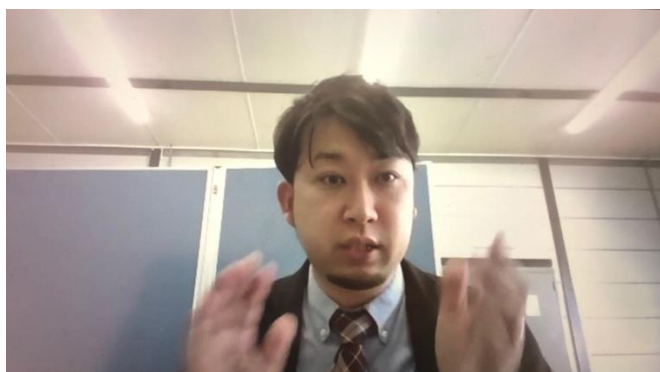
ジャッジをみてスピーチしています



POI も活発に行われました



エアー握手で健闘をたたえ合います



教員によるフィードバック

続く第2ラウンドのお題は、「*Single-sex schools are better than co-educational schools.* (共学より男子校または女子校のほうがよい。)」でした。共学と男子校・女子高のどちらの方が勉強に集中できるのか、男女の偏見を拭うということによってどちらがよいか、どちらの方がより楽しい思い出を作ることができるかなど様々な観点からディベートが行われました。身近な例などを具体例として挙げたり、POIでお互いに疑問を投げ合うことで、議論が深まり、甲乙つけがたいラウンドとなりました。



柏陽高校



平塚江南高校



POI！(川和(上)vs 相模原(下))



大和高校

第2ラウンドが終わると、昼食時間です。「練習はどのようにしてるの?」、「ディベートの復習はどうやってる?」など交流を深める昼食時間となりました。

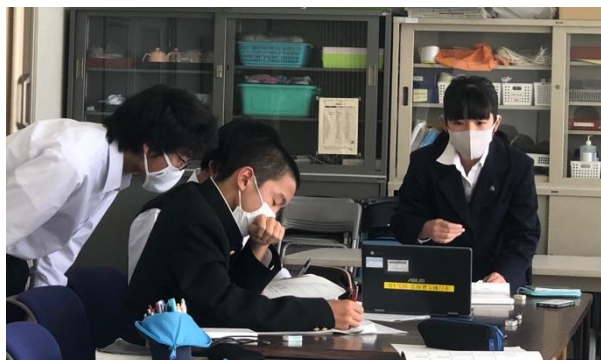


昼食時間(メインルーム)



昼食時間(茅ヶ崎北陵高校)

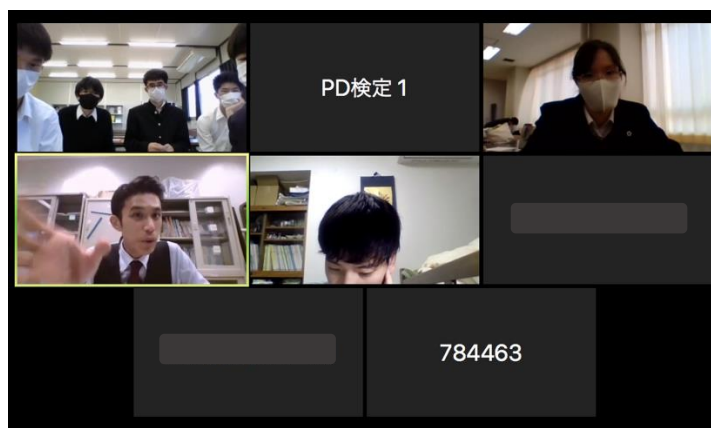
昼食を終えると、第3ラウンドです。お題は、「*Japan should legalize euthanasia.*（日本は、安楽死を合法化すべきである。）」でした。治療法がなく、痛みに耐えられない患者の苦しさ、自己決定権の重要性、家族の観点、医師の負担など多角的な視点で議論されました。



横浜翠嵐高校



厚木高校



教員によるフィードバック

3ラウンドのディベートを終えると、生徒によるエキシビジョンディベートです。論題は、「*"Go To travel" campaign should be cancelled.* (Go To トラベル キャンペーンは中止されるべきだ。)」でした。選出された代表6名が白熱した議論を展開しました。今大会で初めて会う他校の生徒と一緒にチームを組み、戦略を一緒に考えたり、反論を一緒に考えたりなどチームワークを発揮しました。結果は3人の教員ジャッジの投票により Government チームの勝ちとなりました。



エキシビジョンでもPOI!



PDA 認定教育ジャッジによる司会進行

閉会式では、表彰式が行われ、教育委員会の田村 指導主事よりご講評をいただきました。「今日1日がとても興味深い体験になったのではないのでしょうか。今日学んだことを今後活かしてください。」と激励のお言葉をいただきました。

【表彰】

〈エキシビジョンディベータ賞〉

- PM [redacted] さん (相模原高校)
- LO [redacted] さん (横須賀高校)
- MG [redacted] さん (多摩高校)
- MO [redacted] さん (川和高校)
- LOR [redacted] さん (柏陽高校)
- PMR [redacted] さん (鎌倉高校)



エキシビジョンディベータ

〈チーム賞〉

- 1位 横須賀高校
- 2位 大和高校
- 3位 川和高校
- 4位 多摩高校
- 5位 相模原高校



1位 横須賀高校



2位 大和高校



3位 川和高校

〈ベストディベーター賞〉

- [redacted] さん (柏陽高校)
- [redacted] さん (大和高校)
- [redacted] さん (希望ヶ丘高校)
- [redacted] さん (鎌倉高校)
- [redacted] さん (横須賀高校)



〈POI 賞〉

- [redacted] さん (柏陽高校)
- [redacted] さん (湘南高校)
- [redacted] さん (茅ヶ崎北陵高校)
- [redacted] さん (鎌倉高校)
- [redacted] さん (横浜平沼高校)



参加者の声（アンケートより抜粋）

生徒の声

- 今やっている中でいろいろな考え方に触れることができたし、自分自身も成長できていると感じることができた【横浜平沼】
- 英語の技術だけでなく、物の見方や考え方についても学ぶことが出来ていい勉強になった。【横浜緑ヶ丘】
- お互いの意見を激しくぶつけ合い、良い経験になった。自分の能力の無さを知った一日だったが、自分の反省点を知った一日でもあった今日は、最高の学習になったと思う。【鎌倉】
- こんなにすごい子がいるのか！と思った。【平塚江南】
- ディベートがとても楽しく、また他の機会でもやってみたいなと思いました。【大和高校】
- 他校の人と交流することで、普段考えないような視点に触れることができ、とても楽しかったです。【湘南】
- ここまでの練習の振り返りができ楽しく話し合いができた。今後のディベートにつながるバトルができたことがよかった。【光陵】
- 他校の人と交流できて、いつものメンバーとは違う考え方に触れられることができ、英語がとてもすごい人がたくさんいることを改めてわかってモチベーションとなった。今日の経験を来年に活かせるように勉強を頑張りたいと思います。【横須賀】
- もっと英語を勉強してエキシビションでディベートした方々のように話せたらと思いました。【横浜翠嵐】
- とてもレベルの高い生徒と討論ができて、色々な意見を聞けてとても良い経験になりました。エキシビションマッチでは語彙力の高さを見せつけてられて、とても尊敬します。【茅ヶ崎北陵】
- 英語のディベートは英語の4技能すべてをフル活用させなければならないので非常に難しかったが、自分のできることを出し切れたと思う。【大和】
- レベル高い人たちのディベートの様子をみるのが楽しかったし良い刺激になった。【希望ヶ丘】
- 初めて大会に参加し、大会特有の雰囲気緊張しましたが、学ぶことが多く、楽しかったです！【柏陽】
- チームでオンラインで慣れない所だったけど、たくさん話し合って深い議論ができて充実した時間になりました。また機会があれば参加したいです！【川和】
- とても頭を使って疲れましたが、凄く楽しかったです！英語力だけでなく、話し方や考え方の勉強にもなってとても良かったです。【小田原】
- 答えのない問や社会的な問題など、新たな視点が芽生えたから【横浜緑ヶ丘】
- 他校からの新しい角度からの意見を聞くことができて、とても楽しかったです。【横須賀】
- 上手な人のディベートを聞くことができて、とても有意義な時間を過ごすことができ、嬉しく思います。また機会があれば参加させて頂きたいです。【平塚江南】
- 他校の人だけでなく、同じ学校でもあまり関わりが無かった人とも仲良くなれたのがとても楽

しかったです。【横浜緑ヶ丘】

- お題が社会的問題に触れるもので難しく、考えさせられた。もっと関心を持ってニュースを見ようと思った。【横浜緑ヶ丘】
- 議題もすごく難しく大変だったけど、いろんなチームの人の様々な切り口からの意見が聞けて面白かったです。【茅ヶ崎北陵】
- 他校と英語ディベートができてとてもいい経験でした。自分の成長や改善ポイントも知れました。今まで準備してきたものを全部出せて良かったです。今日終わってもまたやりたいです。【横浜平沼】
- 日本語でも難しいお題が出て、考えさせられました。他の学校の方々からもたくさん刺激をもらえました！特にエキシビジョンディベートの皆さんのレベルが高くて本当に驚きました！【横浜平沼】
- 相手が意見をどのようにまとめるか、また POI をどのように表現するかがすごく興味深かったです。短い時間の中で伝えたいことを伝えるのがすごいなと思いました。エキシビジョンが本当にすごかったです。語彙力、対応力、思考力が組み合わさっていてすごかったです！！【希望ヶ丘】
- 参加した学校数が多くて今までに当たったことない学校やレベルの人と対戦することができまし、生徒のエキシビジョンも同じ高校生と思えないほど上手ですごかったです。【茅ヶ崎北陵】
- 英語で考えると言う刺激的な体験をできて、とてもためになりました。ここで得たことを、日常生活でも生かしていきたいです。【横浜平沼】
- 反論された時に、反対の意見を言われて対抗心の気持ちもあったが、それよりも自分の言いたいことが伝わったんだ！という喜びの方が大きく、ディベートの楽しさを感じられた。【横浜翠嵐】
- 自分の知らない世界を知れてよかったです。とても高い水準での英語のやりとりを見れて、勉強になったというところが大きいです。私は今回はディベート自体には参加しませんでした。外から見ていて気づいたことがたくさんありました。もし、いつか出る機会があったら活かしたいと思います。【横須賀】
- とても活発に議論ができたし、ジャッジの講評もとても参考になった。【横浜翠嵐】
- ジャッジの先生が個人個人に良かった点、改善点を伝えてくださり、これからのディベートのやる気や、勉強に繋がった。また、昼食時や試合後に生徒同士の交流もできて楽しかった。【厚木】
- また他の大会でディベートできることを楽しみにしています。それまでにもっと強くなります！！【多摩】
- 緊張してうまく伝えられなかったこともありましたが、様々な意見を聞くことができ楽しかったです。ジャッジの方からいただいたアドバイスをこれからは活かしていきたいです。【茅ヶ崎北陵】

教員の声

- 他校と交流することで、多くの刺激をいただきました。
- 生徒が非常に楽しんでいました。ぜひこのような機会を今後も作っていただきたいです。ジャッジとしての未熟さを感じました。ディベートの勉強をもっとしようとして改めて感じさせる非常によい機会になりました。
- 普段はなかなか対戦できない他校との交流は気づきが多く、毎回大変刺激になります。生徒には良い経験になっており、明日以降への起爆剤になることと思います。ジャッジの難しさを痛感するとともに、教員でも少しずつ成長を感じられ大変ありがたく思います。
- ジャッジも観戦も緊張感があり充実していました。
- 各校の生徒の非常に素晴らしいスピーチの数々を見て感動しました！初めての交流大会でジャッジも緊張しましたが、とてもいい経験になりました。ありがとうございました。
- 生徒が失敗を恐れず話そうとする姿勢が見れて、とても成長を感じました。オンラインでこの質の大会が開催できることにとても感動しました。本当にありがとうございました。コロナの困難にも負けず生徒たちが今できることに挑む姿はとても感動的でした。
- **I was really surprised to see students giving their speeches so eloquently.**
- 生徒たちは本当によく頑張っていたと思います。ランチタイムやジャッジを待つ間の時間に他校との交流が出来、とても楽しそうでした。一年生も短期間で、とても上達し、ディベートが英語力向上に大きな効果があることを実感しました。私自身はジャッジはまだまだでしたので、また練習して頑張りたいと思います。
- 生徒たちは緊張感のなか、全力を尽くしていたように感じました。

(別紙：各校集合写真)



相模原高校



湘南高校



茅ヶ崎北陵高校



川和高校



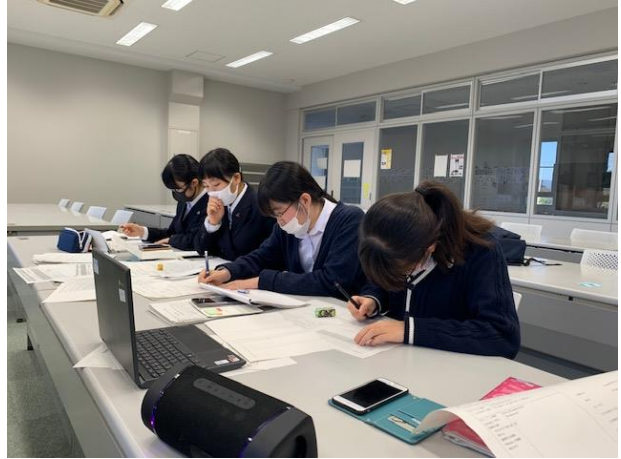
横浜翠嵐高校



横浜平沼高校



多摩高校



小田原高校



希望ヶ丘高校



厚木高校



大和高校



柏陽高校



横須賀高校



平塚江南高校



PDA 岩手県公立高校 即興型英語ディベート交流大会 2020

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2020年11月3日（土）9:00-13:00

会場：岩手県立盛岡第一高等学校（Zoomを用いたオンライン開催）

参加者：盛岡第一高校(生徒9名、教員2名)、盛岡第三高校(生徒8名、教員1名)、
盛岡北高校(生徒5名、教員1名)、福岡高校(生徒8名、教員1名)、
一関第一高校(生徒8名、教員1名)

ジャッジ：PDA スタッフ、PDA 認定教育ジャッジ、相模原高校、名古屋工業大学

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

開会式では、PDA 代表理事である中川智皓（大阪府立大学工学研究科准教授）より、参加校の紹介、昨年度大会の様子との共有、ルールの復習などが行われました。ルールの復習では、全員で POI(Point of Information)の練習を行いました。片手を頭に乘せ、もう片方の手を伸ばすという POI のポーズをしっかりと行うことができました。



PDA 代表理事中川による挨拶



全員で POI の練習

POI の練習を終えると、早速第 1 ラウンドの始まりです。第 1 ラウンドの論題は、「*Japan should legalize euthanasia.*（日本は、安楽死を合法化すべきである。）」でした。ALS（筋萎縮性側索硬化症）など具体的な病名を提示したり、“Please imagine,” と聴衆に呼びかけるようにスピーチをしたり、活発に POI をすることでお互いの疑問を解消したり、積極的に議論を深めようとする様子が見られました。

ディベートが終わると、お互いの健闘をたたえるためにエアー握手を交わしました。その後のジャッジのフィードバックでは、ひとりひとりに対して行われる個人コメントなどをメモを取りながら真剣に聞き入っていました。



堂々とスピーチしています



ディベート後のエアークラップ

第1ラウンドが終わるとすぐ第2ラウンドの始まりです。第2ラウンドの論題は、「*Single-sex schools are better than co-educational schools. (共学より男子校または女子校のほうがよい。)*」でした。Government (肯定チーム) からは異性の目があると言いたいことを言えなかったり、身だしなみに気を使ったりするが男子校・女子校であれば自由に過ごせる、だからこそ勉強にも集中できるなどの論点が出ました。Opposition (否定チーム) からは、男女の様々な観点を取り入れられる、恋愛を楽しめるなどの論点が出ました。



スピーチの様子



POI も活発に行われました

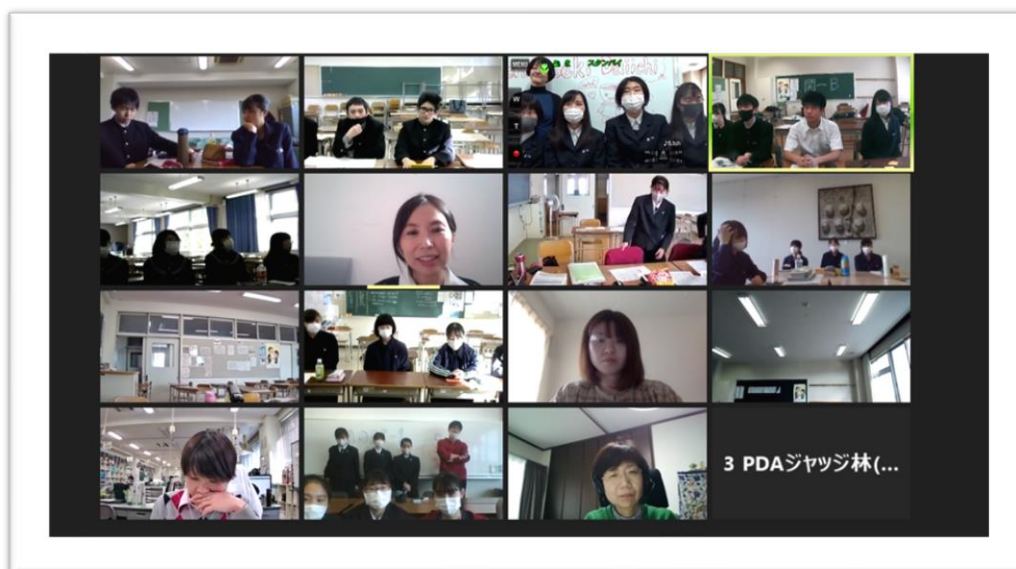
そしてジャッジを務めたスタッフがもう一度この人のディベートを見たいとエキシビジョンディベーターに推薦した6名によるエキシビジョンディベートが始まりました。論題は「*“Go To travel” campaign should be cancelled. (Go To トラベルキャンペーンは中止されるべきだ。)*」でした。感染が広がるリスク、経済的なダメージ、倒産してしまったり経営が苦しくなったりしている観光産業などの抱えている問題など様々な観点から議論が交わされました。

オーディエンスの生徒も勝敗を考えながらディベートを観戦し、ディベートが終わると挙手で Government が勝ったか Opposition が勝ったか投票が行われました。生徒ジャッジとメインジャッジの投票の結果、今回のエキシビジョンディベートは Opposition チームの勝ちとなりました。



ジェスチャーも交えながらスピーチ

閉会式では、表彰式が行われたのち、PDA 代表理事の中川より、大阪都構想を例として挙げながら、一般大衆にわかるように説明することの重要性についてコメントがあり、ディベートを競技として行っている人だけでなく、そうでない人に伝わる説明を心がけてくださいと、これからの活動について激励の言葉が送られました。



PDA 代表理事中川による激励の言葉



【表彰】

〈エキシビジョンディベータ賞〉

- PM ████████さん (一関第一高校)
- LO ████████さん (盛岡第一高校)
- MG ████████さん (福岡高校)
- MO ████████さん (一関第一高校)
- LOR ████████さん (一関第一高校)
- PMR ████████さん (福岡高校)



エキシビジョンディベータ

〈チーム賞〉

- 1位 一関第一高校 Bチーム
- 2位 一関第一高校 Aチーム
- 3位 福岡高校 Aチーム
- 4位 盛岡第一高校 Bチーム
- 5位 盛岡第一高校 Cチーム



1位 一関第一高校 Bチーム



2位 一関第一高校 Aチーム



3位 福岡高校 Aチーム

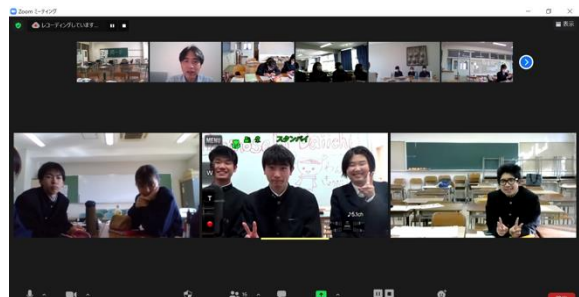
〈ベストディベーター賞〉

- [redacted]さん (一関第一高校)
- [redacted]さん (福岡高校)
- [redacted]さん (一関第一高校)
- [redacted]さん (一関第一高校)
- [redacted]さん (福岡高校)
- [redacted]さん (福岡高校)
- [redacted]さん (盛岡北高校)
- [redacted]さん (盛岡第三高校)
- [redacted]さん (盛岡第一高校)
- [redacted]さん (盛岡第一高校)
- [redacted]さん (盛岡第一高校)



〈POI賞〉

- [redacted]さん (一関第一高校)
- [redacted]さん (一関第一高校)
- [redacted]さん (盛岡第一高校)
- [redacted]さん (盛岡第一高校)
- [redacted]さん (一関第一高校)
- [redacted]さん (福岡高校)
- [redacted]さん (盛岡第一高校)
- [redacted]さん (盛岡第一高校)



参加者の声（アンケートより抜粋）

生徒の声

- ・初めてオンラインで他校のディベーターさんとディベートをしました。うまくコミュニケーションをとることが難しかったですが、とても楽しく、貴重な経験となりました。ありがとうございました。（一関第一高校）
- ・世の中のことを考えさせてくれることで意識をさせる。（福岡高校）
- ・今日は他の高校の方々のスピーチを聞いてすごく勉強になりました。もっと練習して早く慣れて話せるようにしたいです！（盛岡北高校）
- ・初めての即興型ディベートの出場だったが、自分の意見を伝えられて楽しかった。即興で対応する力は、どの場面においても大切なことだと思うから、さらに力をつけてみたいと感じた。（福岡高校）
- ・時間内に自分たちの論を考えるのがとても難しかったけど、協力してできて楽しかった。（盛岡第三高校）
- ・安楽死という論題は難しかったが、いつもよりも短い時間で考え、脳が活性化されて良かった。（盛岡第三高校）
- ・今回初めて **summary** を担当して、最初は緊張していたが、やるにつれて方法が分かってくりアドバイスなどをもらえたりして、今後につながる大会になったと思った。（盛岡第一高校）
- ・準備時間が足りなくてもどうにか話そうと努力できた。即興で話すのは楽しかった。（盛岡第三高校）
- ・試合に出るのは初めてでしたが、同じチームのメンバーと上手く協力してできたと思います。それだけでなく、自分の改善点や議論の進め方のポイントも学ぶことができました。また、他の学校の方々のスピーチから吸収することも多く、「次はもっとこうしたい！」と感じる部分がたくさんあって、ディベートに興味を湧いたので、今後に繋がるすごく有意義な経験だったと思います。（盛岡第一高校）

教員の声

- ・経験豊富なジャッジに細かくアドバイスをもらえるので、とても貴重な機会でした。
- ・大変刺激になりました。普段目立たない生徒にも発言の機会があり、彼らにとって良い動機付けになりました。
- ・生徒が苦心しながらも一生懸命に英語を使う姿を見ることができ、感激しました。県内の生徒同士での交流ができて、励みになったはずと信じております。



2020 年度神奈川県教員研修(神奈川県教育委員会)

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2020 年 11 月 11 日 (水) 14:00-17:00

会場：オンライン開催(Zoom)

参加者：教員 31 名 (横浜翠嵐高等学校、横浜平沼高等学校、横浜緑ヶ丘高等学校、光陵高等学校、希望ヶ丘高等学校、川和高等学校、柏陽高等学校、多摩高等学校、横須賀高等学校、平塚江南高等学校、鎌倉高等学校、湘南高等学校、小田原高等学校、茅ヶ崎北陵高等学校、相模原高等学校、厚木高等学校、大和高等学校)

ジャッジ：PDA スタッフ、PDA 認定教育ジャッジ、神奈川県教員
神奈川県教育委員会

はじめに、高校教育課指導主事である田村総子先生より、今年度最終回ではありますが、来年度につながる回となるようにとエールが送られました。次に、横浜平沼高校 校長 鑪先生からご挨拶をいただきました。「すべての回を見させてもらいました。去年は、横浜平沼高校で行いましたが、今回はすべてオンラインででき、新たな可能性につながりました。交流大会も 17 校参加のオンラインでできて、生徒のアンケート結果も非常によく、先生方が前向きに取り組んでいただいたおかげかと思います。オンラインでも昼食会をとおして生徒同士の交流ができました。今後は、各校授業に落とし込んでいけるよう願っています。」

他府県事例として、熊本県立第二高校校長の山本 朝昭先生より、熊本県におけるこれまでの即興型英語ディベートの推進についてご講演いただきました。ご自身が教鞭をとられた経験から、管理職になられてからの即興型英語ディベートの授業導入まで、貴重な内容が紹介されました。また、実際に現在進行形で行っている第二高校の授業導入事例を英語科の平井先生にコメントいただきました。質疑応答では、具体的にどう授業に導入しているかお話が繰り広げられました。

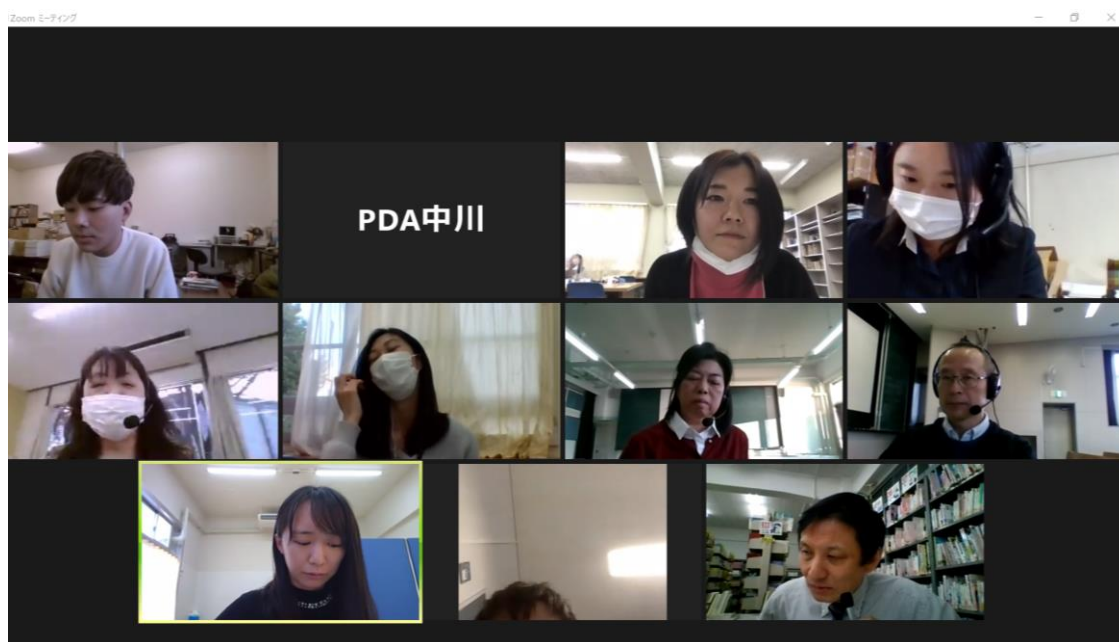


鑪先生によるご挨拶



熊本県立第二高校校長 山本先生のご講演

次に、本研修最後のラウンドを、肯定、否定、ジャッジチームに分かれて行いました。Human judges should be replaced with AI judges. (人間の裁判官はAIの裁判官と入れ替わるべきである。) という論題でした。生徒交流大会を通し、ジャッジ力についても向上が見られました。



ディベート実践・ジャッジの様子

最後に、PDA 代表理事の中川より、先日の交流大会についてのまとめ、特に、アンケート結果を踏まえて、本研修および交流大会の趣旨の再確認、そして、今後、即興型英語ディベートを通して本質的に何を目標にすべきか、ということが話されました。また、今後の教員の学びが変わっていくことも、自身が大学教員であることを踏まえて述べられました。最後に、PDA 認定教育ジャッジ試験に関する説明とエールが送られました。

一年間、ご多忙の中、本研修会の運営にご協力いただきました教育委員会および校長先生方、そしてご参加してくださいました17校の先生方、ありがとうございました。今後もPDA一同、よりよい学校教育につながりますよう尽力していきます。

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・最後の生徒に向けて、また教員に向けてのお話は非常に勉強になりました。授業で扱うことの意義が改めて確認できました。（大和高等学校）
- ・とても有意義でした。今までにないトピックで話せて新鮮でしたし、他県の実践例を聞くことができたのが励みになりました。（平塚江南高等学校）
- ・今年はオンラインでしたが、PC 操作等も勉強になりましたし、他の先生方のレベルの高さなどを知ることができ、とてもいい刺激をいただきました。（厚木高等学校）
- ・第二高校の授業実践で生徒と一緒にジャッジをしているとのことだったので今度その方法を取り入れてみたいと思います。（柏陽高等学校）
- ・ディベートを通してどのような教育をしたいのか、もう一度よく考えて来年度以降に生かしていきたいです。（湘南高等学校）
- ・なかなか上達しませんが、でも、少しずつはできるようになっているなど自分自身感じることのできた1年間でした。生徒たちも非常に頑張ってくれ、担当になって良かったと思うことができました！（横浜緑ヶ丘高等学校）



PDA 第7回 PDA 首都圏公立高等学校 即興型英語ディベート交流大会 2020

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2020年11月15日(日) 12:00-17:30

会場：Zoom を用いたオンライン開催

参加者：東京都立日比谷高等学校、東京都立西高等学校、東京都立三田高等学校、
神奈川県立湘南高等学校、神奈川県立柏陽高等学校、千葉県立千葉高等学校、
千葉県立船橋高等学校、埼玉県立浦和第一女子高等学校、埼玉県立浦和高等学校
大阪府立北野高等学校 (Swing チーム) (全10校)

ジャッジ：PDA スタッフ、PDA 認定教育ジャッジ、神奈川県立湘南高等学校、
神奈川県立柏陽高等学校、東京大学、名古屋工業大学

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

今年で第7回目となる首都圏公立高等学校の交流大会。開会式では、東京都立日比谷高等学校の武内校長先生より、「志を同じくする者同士、しのぎを削って、高め合ってください。」と激励のお言葉をいただきました。

PDA 代表理事である中川智皓（大阪府立大学工学研究科准教授）より、参加校の紹介、昨年度大会の様子の共有、ルールの復習などが行われました。ルールの復習では、全員で POI(Point of Information)の練習を行いました。Zoom のミュートを解除し、「POI!」と言いながら POI のポーズをすることができました。

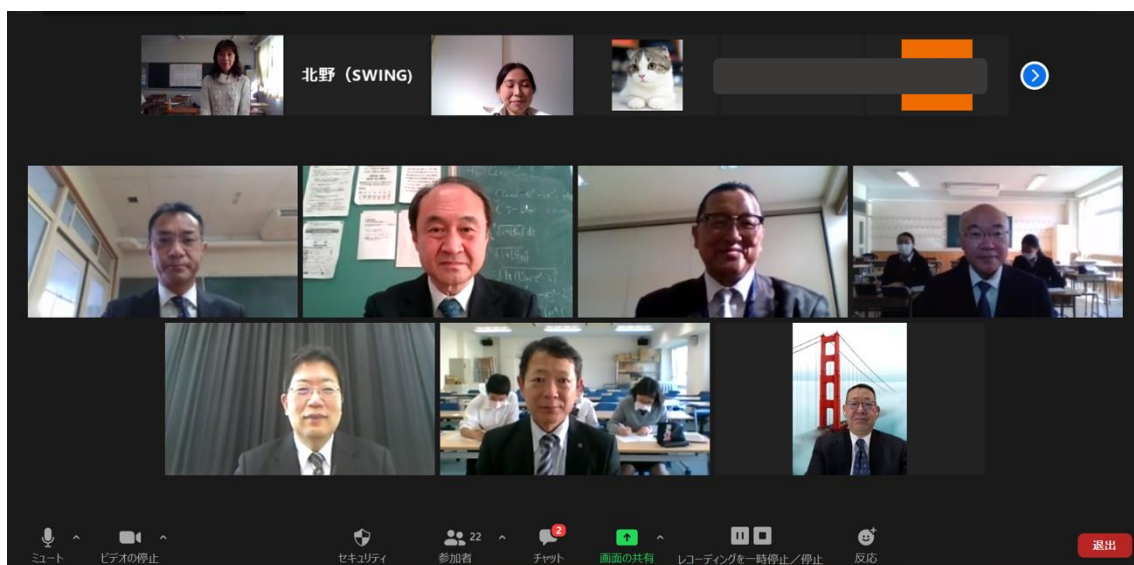


武内校長先生によるご挨拶



参加校の紹介

POI の練習を終えると、早速第 1 ラウンドの始まりです。その準備時間に校長先生の集合写真撮影を行いました。



校長先生集合写真

POI の練習を終えると、早速第 1 ラウンドの始まりです。第 1 ラウンドの論題は、「*Japan should have nuclear weapon.* (日本は核兵器を保有すべきである。)」でした。Government (肯定) チームは、核の抑止力になるという点や、安全保障条約の不安定さを指摘した上で、自分で抑止力を持つことが重要だという点などを主張しました。Opposition (否定) チームは、韓国などと協力することで他国の核兵器に対抗することができるという点、国際社会から批判を食らって外交上不利になるという点などを主張しました。



準備時間の様子



ディベートの様子

第1ラウンドが終わるとすぐ第2ラウンドの始まりです。第2ラウンドの論題は、「*Term-exam should be abolished. (定期テストは廃止すべきである。)*」でした。第1ラウンドでジャッジから受けたアドバイスを活かそうと、相手の理由をしっかりと聞いて反論する、わからない点があったらPOIをして聞いてみる、など取り組んでいる様子が見られました。



ディベート後の握手（北野高校 vs 浦和第一女子）

そしてエキシビジョンディベート前最後のディベートである第3ラウンドです。第3ラウンドの論題は、「*The Japanese government should withdraw the rejection of the six appointed scholars of the Science Council of Japan. (日本学術会議が推薦した6人の学者の任命拒否を撤回すべきである。)*」でした。新聞やテレビで耳にするこの時事問題について、普段知識を吸収してきた成果を発揮することができました。日本学術会議としてどうあるべきかや、軍事研究の意義など様々な観点から議論されました。



堂々とスピーチ（日比谷高校）



POI！（湘南高校 vs 県立千葉高校）

そしてジャッジを務めたスタッフがもう一度この人のディベートを見たいとエキシビジョンディベーターに推薦した6名によるエキシビジョンディベートが始まりました。論題は「*“Go To travel” campaign should be cancelled. (Go To トラベルキャンペーンは中止されるべきだ。)*」でした。感染が広がるリスクや、経済的影響などについてPOIなども交えながら白熱した議論となりました。中には、自身の住む埼玉県を事例に、観光についての議論を展開した生徒も見られました。

オーディエンスの生徒も勝敗を考えながらディベートを観戦し、ディベートが終わると挙手で Government が勝ったか Opposition が勝ったか投票が行われました。生徒ジャッジとメインジャッジの投票の結果、今回のエキシビジョンディベートは Government チームの勝ちとなりました。



エキシビジョンディベート

閉会式では、表彰式が行われたのち、神奈川県立柏陽高等学校の井坂校長先生より、「全員の方で素晴らしい大会になった。リモートでの開催という記念すべきものになった。これからも頑張ってください。」と労いのお言葉をいただきました。



井坂校長先生によるご挨拶

【表彰】

〈エキシビジョンディベータ賞〉

- PM ■■■■■さん (県立浦和高校)
- LO ■■■■■さん (日比谷高校)
- MG ■■■■■さん (湘南高校)
- MO ■■■■■さん (浦和第一女子高校)
- LOR ■■■■■さん (県立船橋高校)
- PMR ■■■■■さん (柏陽高校)



エキシビジョンディベータ

〈チーム賞〉

- 1位 東京都立日比谷高等学校
- 2位 埼玉県立浦和高等学校
- 3位 神奈川県立柏陽高等学校
- 4位 埼玉県立浦和第一女子高等学校
- 5位 神奈川県立湘南高等学校
- 6位 東京都立西高等学校



1位 日比谷高校



2位 県立浦和高校



3位 柏陽高校



4位 浦和第一女子高校



5位 湘南高校



6位 都立西高校

〈ベストディベーター賞〉

- [redacted]さん (県立浦和高校)
- [redacted]さん (県立浦和高校)
- [redacted]さん (湘南高校)
- [redacted]さん (湘南高校)
- [redacted]さん (湘南高校)
- [redacted]さん (千葉高校)
- [redacted]さん (柏陽高校)
- [redacted]さん (浦和第一女子高校)
- [redacted]さん (浦和第一女子高校)
- [redacted]さん (浦和第一女子高校)
- [redacted]さん (日比谷高校)
- [redacted]さん (日比谷高校)
- [redacted]さん (日比谷高校)
- [redacted]さん (都立西高校)
- [redacted]さん (都立西高校)
- [redacted]さん (都立西高校)
- [redacted]さん (県立船橋高校)

〈POI 賞〉

- █████さん (県立浦和高校)
- █████さん (県立船橋高校)
- █████さん (柏陽高校)
- █████さん (浦和第一女子高校)
- █████さん (日比谷高校)
- █████さん (北野高校(Swing))

参加者の声（アンケートより抜粋）

生徒の声

- ・学術会議が出てきたのに驚き、広く知識を知っていなければならないと思った。（都立西高校）
- ・皆さんレベルが高くて大変でした。オンラインという形になりましたが、寧ろ相手の顔がよく見えたり、POI がしやすかったりと利点も多かったと思います。楽しかったです。（浦和第一女子高校）
- ・同年代の方の素晴らしいディベートを聞いて、自分ももっと頑張ろうと思った。（県立千葉高校）
- ・モーションは難しいものも多かったが、チームで協力することで戦えているという実感ができた。（柏陽高校）
- ・自分の英語力を駆使しながら、相手の意見に対し反論して、論の強化の仕方を学ぶことができた。（日比谷高校）
- ・トピックも面白くさまざまな意見が出ていて本当に楽しかった。オンラインでしたが自分の学校以外の方々とディベートができてとても刺激的でした！今後も学校にて引き続き英語の学習、ディベートの練習をしていきたいです。（三田高校）
- ・昨年参加したときよりもコミュニケーションをとることができ、積極的にスピーチを表現できたので成長を感じることができた。（県立浦和高校）
- ・今までに言われたことを活かしてできた。他校と交流できることがとても嬉しい！（湘南高校）
- ・学びが多く同学年の生徒でも自分より実力が上の人が出て本当に良い刺激となった。来年も挑戦してみたい。（浦和第一女子高校）
- ・レベルが高くて、いい経験になりました。他校とディベートできる貴重な機会で、最後エキシビジョンに出れて、とっても緊張したけどもっと頑張ろうと思えました！（県立船橋高校）
- ・エキシビジョンディベートの人たちのレベルの高さに驚いた。zoom でも大規模なことができたことは素晴らしいと思った。（県立千葉高校）
- ・エキシビジョンディベートで、凄く力のある方々のディベートを見て、勉強が出来たので、良かった。（北野高校）

教員の声

- ・参加するたびに生徒も自分も目に見えて成長できるのが大変ありがたいです。緊張しますが何にも代え難い充実感を得ることができます。
- ・生徒も私も成長できたように思います。